

単元別 評価規準

1 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	<ul style="list-style-type: none"> ・契約と消費者の権利・責任に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・成年年齢が 18 歳以上となったことに対し、その責任について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約と消費者の権利・責任について、現代の諸課題について具体例をもとに解決しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約と消費者の権利について、積極的に学ぼうとしている。

2 政治的な主体となる私たち

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	<ul style="list-style-type: none"> ・選挙権年齢が 18 歳以上となり、参政権の意義について理解している。 ・選挙のしくみ、政党の役割などを理解している。 ・国会の地位と構成・権限、議院内閣制のしくみ等の民主政治のしくみについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な政治参加としての地方自治のしくみとその意義を理解している。また、地方自治の課題について考察しどう改善する必要があるかを考え、意見を表明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・政治と地方自治等について、積極的に学ぼうとしている。

3 経済的な主体となる私たち

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用と労働問題について、日本の雇用慣行とその変化について主体的に考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用事情の変化に伴う労働問題を、具体例をあげ、自分の意見を述べるができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用と労働問題について、現代の諸課題をとらえ、将来のあり方について考えようとしている

4 経済のグローバル化

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	<ul style="list-style-type: none"> 以下について理解している。 ・グローバル化の進展による貧困や格差 ・地球環境問題。 ・国際問題の解決について多様な組織の協力の重要性 ・地域的経済統合がもたらす影響。 ・貧困や格差の解消と国際機構の役割や政府開発援助の意義。 ・地球環境問題と国際的な取り組み。 ・資源の有限性と新エネルギーなどの開発への期待について。 	<ul style="list-style-type: none"> 経済がグローバル化する中で、貧困や格差などの問題を乗り越え、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきか考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 経済のグローバル化と諸問題について、興味関心を持ち、積極的に学ぼうとしている。

課程 定時制

教科	地理歴史	科目	世界史A	単位数	2単位	学年	3年	科	基礎工学科・建築科
----	------	----	------	-----	-----	----	----	---	-----------

1、科目の目標

世界の様々な地域の歴史や文化を学ぶことにより国際理解を深め、国際社会の中で生きてゆく資質を養う。

2、使用教科書・副教材

明解 世界史A（帝国書院）

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一 学 期	4月	前近代の諸文明 ・ 人類の始まり、東アジアの文明 ・ 南アジアの文明、東南アジア ・ 西アジア北アフリカの文明、ヨーロッパの文明	同左	24時間
	5月			
	6月			
	7月			
二 学 期	8月	一体化に向かう世界 ・ 繁栄するアジア、大航海時代と新たな国家の形成 欧米の工業化とアジア諸国の動揺 ・ ヨーロッパとアメリカの諸革命 ・ 自由主義ナショナリズムの進展 ・ アジア諸国の動揺 ・ 東アジアの大変動	同左	30時間
	9月			
	10月			
	11月			
三 学 期	12月	現代社会の芽生えと世界大戦 ・ 現在につながる社会の形成、第一次世界大戦 ・ 民族自決を求めて、経済危機から第二次世界大戦へ 冷戦から地球社会へ ・ 冷たい戦争の時代、冷戦終結への道のり ・ 地球社会への歩み、持続可能な社会をめざして	同左	24時間
	1月			
	2月			
	3月			

合計 78時間

4、評価の方法

- ・ 定期考査・小テストの実施により、授業の内容の理解度と学習の定着度を評価する。
- ・ 意欲、関心をもって授業に取り組んでいるかを評価する。
- ・ 考えたことを言葉・文章で表現することができるかどうかを判断する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

- ・ 出欠席の状況をきちんと把握させる
- ・ ノートをきちんととらせ、現代につながる歴史の流れを理解させる

課程 定時制

教科	公民	科目	現代社会	単位数	2単位	学年	4年	科	基礎工学科・建築科
----	----	----	------	-----	-----	----	----	---	-----------

1、科目の目標

1・3学年で学んだ地理A、世界史Aの基本をふまえて、今日の日本と世界が抱える様々な問題を具体的に考察し、現代に生きる我々の現在と未来を考える資質を養う。また、ニュースや新聞を活用し、時事的な問題に目をむけさせる。

2、使用教科書・副教材

高等学校 改訂版 新現代社会（第一学習社）

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一 学 期	4月	・ 私たちの生きる社会	同左	24時間
		・ 環境と私たちの生活		
	5月	・ 資源・エネルギー問題と私たちの生活		
		・ 科学技術の発達と私たちの生命		
	6月			
	7月			
二 学 期	8月	・ 高度情報化社会と私たちの生活	同左	30時間
		・ 現代の経済社会と私たちの生活		
	9月	・ 雇用と労働問題		
		・ 労働環境の整備		
	10月	・ 公害の防止から環境保全へ		
		・ 消費者問題と消費者主権		
	11月			
三 学 期	12月	・ 現代の経済社会と私たちの生活	同左	24時間
		・ 社会保障と福祉社会		
	1月	・ これからの社会保障		
		・ とともに生きる社会をめざして		
	2月	・ 社会保障と消費税		
		・ 震災から復興への道のり		
	3月	・ 人口問題と私たちの未来		

合計 78時間

4、評価の方法

- ・ 定期考査・小テストの実施により、授業の内容の理解度と学習の定着度を評価する。
- ・ 意欲、関心をもって授業に取り組んでいるかを評価する。
- ・ 考えたことを言葉・文章で表現することができるかどうかを判断する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

- ・ 出欠席の状況をきちんと把握させる
- ・ ノートをきちんととらせる